

## 【知事賞】受賞作品と選評

### 【短歌】

#### 戦争を笑い話にしてた父ほんとの辛さ病室で聞く 船田 美津子

70年を越える時間が一首のなかにあります。〈わたし〉は「ほんとの」と言うことで父の時間の重みを感じているのですが、では「笑い話」の父は嘘だったのか。そうではないでしょう。笑い話と「ほんと」の振幅こそが父の戦後だったのです。辛さにはほんとは隠していることのそれもあったことでしょう。それが開示されるのが病室であるというのも胸をうちます。

### 【俳句】

#### 水害の片付かぬまま稲の花 富岡 秋美

今年、日本列島は災害が多発した。殊に台風を伴った豪雨による河川の氾濫は酷く、多大な被害をもたらした。その水害に遭った集落や、田畑がまだ片付けの進んでいない中、青田の稲を見て見ると、小さな白い花が健気にも咲いていた。咲いている時間の短い稲の花を目ざとく見つけた作者は、言い知れぬ強い感動を覚えたのである。

### 【川柳】

#### 瘡蓋の下で進歩の夢を見る 廣江 敦子

瘡蓋のできるような怪我を、私たちは数えきれないほど経験してきた。子供の頃はよく転び、血止め草の汁を傷に擦り付けては、走り回ったものである。治り始めると瘡蓋が気になり少しずつ剥がし、様子を見ていたのも懐かしい思い出である。また、この作品を内面描写として鑑賞しては、どうだろうか。違った景色も見えてくるかもしれない。

### 【詩】

#### 「二つの耳」 金築 雨学

「右の耳が遠くなった」ことを心と体の両方で、自然体で受け入れようとする様子が、共感を呼びます。所々にユーモアを漂わせながらも、「聞こえる耳と聞こえない耳と／それぞれ持つことにした」と淡々と決意を語るあたり、心に沁みます。「朝ドラ」の話題を挿入したところも作者の心の動きを捉えていて、面白い工夫でしょう。

### 【散文】

#### 「神原さんの鏡」 河野 純子

女主人公は役場の老人の施設入所を担当している。ある日、要介護の老人を訪問すると、老人は薄汚れた毛布を体に巻いて寝床に横たわっている。周りに夥しい古代史の書物が積まれている。彼女は養護老人ホームに入所するように老人を説得するつもりである。ところが、老人はホームに入るつもりはない。辺りを見ると、荒れ果てたごみ屋敷の棚に「三角神獣鏡」が飾ってある。古代史に興味がある彼女は銅鏡を手にとって顔を映してみる。老人は「これは本物だ。卑弥呼のものだ」と言い張る。ホームに入所することで、一件は落着いた。彼女が家に帰って、靴を開けると、いつの間に銅鏡が入っていた。それは保存・継承の義務を意味するので、ことの重大さに茫然自失する。創作の才を感じる好作品である。

## 【ジュニア部門大賞】受賞作品と選評

### 【短歌】

#### 制服のえんじのリボン結ぶ朝今日一日が結ばれている 笠岡 優

笠岡さんの短歌の前半に目を通すと、朝、登校する前に、いそいそと制服のリボンを結んでいる姿がありありと見えてきます。また、「今日一日が結ばれている」という後半の表現から、今日も一日頑張らなくちゃというような少し緊張した雰囲気伝わってきます。お勤めに出かける前にネクタイを結ぶ大人の気持ちにも通じる歌で、とても共感もてました。

### 【俳句】

#### 田植えしてどろにつかまり動けない 岡本 紗依

最近の田植は機械化され田植機が泥田の中を走って田植を終えてしまう。運転手と苗箱を運搬する補佐役で田植が全て進んでしまう。

その様な環境の中で中学生に生活体験学習として田植を実習したのであろう。

仲間と一緒に田植えの為に設えてある代田に入った。初めての体験で恐る恐る入る泥田は、見た目よりも柔らかく脛までずぶずぶと入った。踏み出そうとした次の足も泥から抜くことが難しかった。「田植えして泥につかまり」と表現した田植は貴重な体験と成ったことであろう。

### 【川柳】

#### 夏の空思い描けばユートピア 松村 菊向子

「夏の空いっぱい描く」という発想と表現から、中学生最後の短い夏をいとおしむ少女の純真な姿を垣間見る。彼女の作品からは、絞り出すようなノスタルジアが感じられ大人の心もキュン。内面描写に優れており、まさにユートピアそのものだと思う。

### 【詩】

#### 「森の木」 星野 友希

森の木々と人間や虫たちとを繋ぐ命の素晴らしさを感動的にうたっています。

### 【散文】

#### 「バスの不思議な話」 岩田 華林

作者は小学4年生の女の子である。地元安来市出身の児童文学作家、廣田衣世さんの講演を聞き、創作物語の執筆に取り組んだ。バスの中で起こる不思議な現象を想像しながら書いている。特に「バスが異界(おばけの世界)とつながる」という発想はユニークである。「本を読むのが大好き」という作者が、今後、更に創作してくれることを期待したい。